
羽もなき鳥は落ちていく

桜楼月華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

羽もなき鳥は落ちていく

【Nコード】

N0911Z

【作者名】

桜楼月華

【あらすじ】

——自殺できるから、勇気がある。

——間違いだった。

——ただ力がないから。落ちていったただけだった。

飛んでいる少女がいた。

落ちる様に落ちたように浮く様にそこにいた。

誰の目にも映っているはずだった。

光在る喧騒の中に。

闇沈む静寂の中に。

だけど誰の目にも映っていなかった。

なにもないから。

なにも持たないから。

なにもないから。

空っぽだから。

見えない。写らない。映らない。

視覚に入らず。視認すらされず。確認すらされない。

消えてしまえたら幸せだろう。

だけど消えない。

素敵な空が見えたから。

素敵な空に憑かれたから。

止めてと願った。

期待させるな。殺せ。殺せ殺せ殺せ殺せ殺せ殺せ。

落ちたいんだ。落ちて、地の果てを見て、消えたいんだ。

期待させた分の代償を払え。

できないなら落ちろ。落ちてしまえ。神なんて呪ってなんぼ。人なんて、呪ってなんぼ。

落ちている様だった。だけでも空に近づいてく。このまま大気圏に突入して死ぬのだろうか。

だけでも聞こえてくるのは人の声。

嫌だ嫌だ嫌だ。

落ちたくない。

落ちたら人の喧騒に飲まれる。呑みこまれる。

あんな場所にいきたくない。

恐怖と不安とが渦巻くあんな場所に行きたくない。

身体が浮いた。

空を見上げるのは、疲れた。

だから。

一瞬。

くだらない今生の見納めには相応しい程に短く。

空っぽで。

清々しい一瞬。

それだけだった。

嫌だと思っても。

なんだかんだ言ったって。

空は飛べない。

生きるための羽ちからもない鳥わたしは、

落ちるだけ。

——ぐしおわりやりつ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0911z/>

羽もなき鳥は落ちていく

2011年12月3日15時56分発行